

報 告

ニーズ・シーズマッチング交流会 2024「作る人と使う人の交流会」に参加して

吉川 和徳

一般社団法人福祉用具活用相談センター 理事長（理学療法士）

1. はじめに

「令和6年度ニーズ・シーズマッチング強化事業」の一環として、「ニーズ・シーズマッチング交流会2024」（以下、交流会）が、公益財団法人テクノエイド協会により、①Web開催（2024年10月1日～2025年1月31日）、②大阪会場（2024年11月25日～27日）、③東京会場（2024年12月10日～12日）で開催されました。このうち③東京会場（2024年12月12日）に参加しました。

2. 交流会への参加

交流会は「実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて、ニーズ側とシーズ側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出すること」¹⁾を目的に2014年から開催しているもので、今年度も表の

とおり多くの参加者、総アクセス数がありました¹⁾。

私が参加した時間帯にも、車いす使用者を始めとした「使う人」と製造事業者など「作る人」が多く参加され、出展者と一般来場者が活発に意見交換をしていることが印象的でした。出展者には、これまで福祉機器開発をしてきた企業だけでなく、自社のもつ技術を基に新たに機器を開発した（しようとしている）企業の他、工学系の学生を中心に展示しているブースもあり、正に名称どおりのニーズとシーズのマッチング交流会でした。

2014年の初回から、ほぼ毎回参加していますが、回を重ねるごとに出席者、参加者の多様性が増し、意見交換が活発に行われるようになっていくことが感慨深かったです。また会場内では、交流会併催セミナーとして、2件の調査事業の報告がありましたが、その内の「新たな支援機器開発領域の開拓及び活性化のための実態調査の報告」は、報告者が理学療法士で、多様な場での活躍が広がっていることを同職種として大変頼もしく感じました。

3. リハビリテーション工学協会ブースでお手伝い

交流会にはリハビリテーション工学協会（以下、協会）も出展しており、交流会参加当日の午後、協会ブースにて深野事務局長とともに来場者への説明や案内等を行いました。

協会ブースでは福祉機器コンテスト2024受賞作品の展示や協会の活動紹介などが行われており、私も来場者への説明等を通じて、協会の活動を振り返ることができました。また最後にはブース撤収のお手伝いもさせていただき、永年の会員でありながら、あらためて事務局の苦勞を知ることができ、皆様への感謝の念が深まりました。

表1 参加者（アクセス数）一覧

① Web 開催 Web 交流プラットフォーム			合計
トップ画面総アクセス数			12,323 回
②大阪会場			406 名
一般来場者		出展者	
使う人	作る人		
187 名	87 名	132 名	
③東京会場			841 名
一般来場者		出展者	
使う人	作る人		
260 名	310 名	271 名	

一般社団法人福祉用具活用相談センター



図1 展示ブースの様子

4. おわりに

交流会への参加を通じて、学びを深めることができたと同時に、参加者や出展者のすそ野の広がりを感じて、リハビリテーション工学の素晴らしさを再認識できました。また、協会ブースのお手伝いの機会をいただき、隣のブースではニーズ & アイデアフォーラム（2024年12月21日（土）成果発表会開催）が出展されていたことも相まって、出展者や来場者との旧交を温めることができました。

【文献】

- 1) テクノエイド協会：障害者自立支援機器ニーズ・シーズマッチング強化事業ホームページ
<https://www.techno-aids.or.jp/2024koryukai/web/hall/cms/>（2025年3月6日確認）